

女性に寄り添う「支援の輪」づくり事業【佐賀県】

総事業費	7,220千円
交付金額	3,609千円

地域の実情と課題

【実情】(令和元年3月)

- ▶ 雇用者における非正規雇用:男性35.9% 女性50.6%

【課題】

- ▶ コロナ禍で経済や生活への不安等が高まっているが、適切な相談・支援につなげていない女性が増えている。

目的・目標

【目的】

- ▶ 相談者の課題に対し、適切な相談・支援を行い、相談者の不安軽減・課題解決を図る。

【目標】

- ▶ サロン参加者の満足度 80%(98.2%)

事業の特徴

- ▶ NPOによる困りごとを相談できる場（女性のためのほっとカフェ）の開設
- ▶ 社会福祉士による相談支援
- ▶ 女性用品等の配布

連携団体

女性に寄り添う「支援の輪」づくり事業連絡協議会

- ▶ 男女センター:佐賀県男女共同参画センター(アバンセ)
- ▶ 社会福祉士:佐賀県社会福祉士会
- ▶ NPO法人:佐賀県放課後児童クラブ連絡会、隣友の会、こすもす村、よりみちステーション、唐津市子育て支援情報センター、CivicForce、社団法人:スマイルキッズ

事業の効果

- ▶ サロンが参加者にとって、安心して過ごせる居場所・生活相談の場となった。
- ▶ サロン運営者(社会福祉士等)の助言(相談機関へのつなぎ)が相談者の課題解決・不安軽減に役立った。

今後の課題

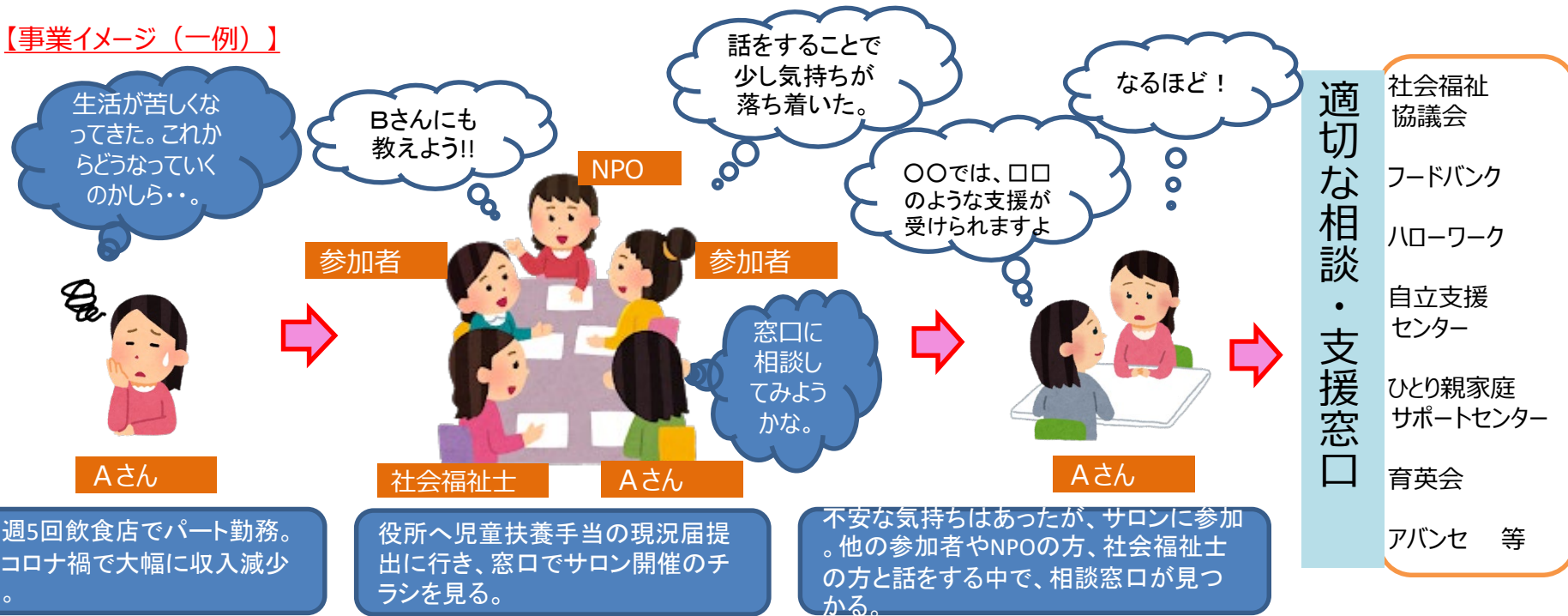
- ▶ 潜在的な課題を持つ相談者に対し、経済的な相談・支援を行っていくことが課題となっている。

女性に寄り添う「支援の輪」づくり事業

目的

NPO等が行う居場所づくり等の機会を活用し、その方が抱えるお困りごとを聞き出し、適切な相談・支援窓口につなぐ

【事業イメージ（一例）】



週5回飲食店でパート勤務。コロナ禍で大幅に収入減少。

役所へ児童扶養手当の現況届提出に行き、窓口でサロン開催のチラシを見る。

不安な気持ちはあったが、サロンに参加。他の参加者やNPOの方、社会福祉士の方と話をする中で、相談窓口が見つかる。

WHO (誰が)

主な対象者は、不安・困りごとを抱える女性

HOW (どのようにして)

サロン開催を知るきっかけは、

- ・子ども宅食にチラシ同封
- ・民生委員によるポスティング
- ・学校養護教諭から案内
- ・ハローワーク(マザーズコーナー)等

WHERE (どこで)

NPO活動拠点等を活用したサロン

- ・市民会館にてサロン設置
- ・アバンセにてサロン設置
- ・オープンスペースにてサロン設置 等